

令和4年度 外部評価シート

施設名	県立先端科学技術支援センター	現指定管理期間	平成30年度～令和4年度(5年間)
指定管理者	日本管財株式会社	選定方法	公募

1 評価項目ごとの評価 (対象期間：平成30年度～令和4年度)

評価項目	評価
維持管理業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによると、「客室の清潔さ・快適さ」について「大変良い」「良い」が 87%との評価を得ている。</li> <li>・経年劣化による不具合はあるものの、適宜修繕対応を行うとともに、宿泊室のWi-Fi整備等ニーズに沿った改善にも努めている。</li> <li>・一方で、会議室にはWi-Fiが未整備である。オンライン会議が普通になりつつある時代に、かなり不自由。</li> <li>・令和2年度に大規模計画修繕を行った。</li> </ul>
運営業務	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートによると、「接客態度」について「大変良い」「良い」が 86%、「また利用したい」が 93%との評価を得ている。</li> <li>・今後は、コロナ禍で実施を控えていた自主事業により集客促進を期待する(コロナ前はヒーローショーやマルシェ等を開催)。</li> <li>・研究者や近隣企業が主なターゲットである。送迎バスやキャッシュレス決済手段の拡充、食事環境の改善、近隣企業等への営業活動など、利用促進に向け、さらに積極的に取り組んでほしい。</li> </ul>
利用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で来訪者が減少する中、周辺に観光資源がほとんどない地域において、宿泊室稼働率 30%以上は評価できる。</li> <li>・施設の認知度を高め、近隣の企業等に一層の広報を図るべき。</li> <li>・会議室の利用率が著しく低いので、抜本的な対策を講じる必要がある。</li> <li>・学校行事や社内会議で、密を避けるために当センターの大きな部屋(大ホール等)を利用するケースが増えているのは新しい傾向である。アフターコロナを見据えた会議室利用の新しい提案が必要。</li> <li>・宿泊部門においては、宿泊予約サイトの活用や団体利用・合宿利用への売り込みを、レストラン部門においては、サッカー場への弁当配達や近隣施設の食堂とのタイアップを検討すること。</li> <li>・新幹線停車駅である相生駅前にはビジネスホテルが充実しているため、そこでの広報は「宿泊施設」よりも「会議室」としての利用を前面に出したほうが効果的ではないか。</li> </ul>
収支状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナにより、オンライン会議や出張抑制が定着した。収支状況にもその影響が現れており、苦慮されたと見受けられる。</li> <li>・そのような中でも、照明のLED化や水漏れ対策等を実施し、光熱水費の削減に努めている。</li> </ul>
運営体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総括担当1名、総務担当1名、設備担当1名、フロント担当常時2名のスタッフを配置し、支障なく運営している。</li> <li>・本社のバックアップ体制も整っている。</li> </ul>

(参考) 県立先端科学技術支援センター指定管理者候補者選定委員会委員

氏名	主な役職	備考
頃安 義弘	株式会社帝国電機製作所 代表取締役社長	
鈴木 哲	兵庫県公立大学法人兵庫県立大学 高度産業科学技術研究所長	委員長
福寿 寛有	株式会社神戸ポートピアホテル 取締役営業本部長	
宮口 美範	兵庫県産業労働部 次長	
芳田 京美	中小企業診断士	

(50音順/敬称略)